



国際交流ひろば

2026
秋

Kagoshima International Association News

VOL.278/2026

令和8年度「災害時外国人支援ボランティア養成講座」 受講者募集のお知らせ

講座内容：講義「災害時に必要とされる外国人支援について～佐賀県の災害時の事例をもとに～」

演習「災害時や避難所でのやさしい日本語を使用したコミュニケーション体験」

講師：矢富明德氏（（公財）佐賀県国際交流協会）

2026年 **対面**
12月20日⑤
13:30-16:30

【場所】カクイックス交流センター3階中研修室第1（※市電・水族館口電停近く）

【定員】20名程度（※先着順）

【対象】災害時の外国人支援に関心のある方

【申し込み】QRまたはURL <https://forms.gle/NbSdLNUe1eABPPLD7>

※締切：12月12日（土）

※申し込み後、自動返信メールが届きます。



2027年 **オンライン**
1月23日④
13:30-16:30

【場所】ZOOM（オンライン）

【定員】20名程度（※先着順）

【対象】災害時の外国人支援に関心のある方、PCからZOOMに接続できる方

【申し込み】QRまたはURL <https://forms.gle/MTpWpbJ4NKfK9WTF8>

※締切：1月15日（金）

※申し込み後、自動返信メールが届きます。

※講座1週間前頃にZOOMリンクを送付します。



○対面・オンラインともに講座内容は同じです。 ○参加費は無料です。 ○詳細は協会HPをご確認ください。

鹿児島県国際交流協会からのお知らせ

＼ 鹿児島で世界を語ろう！外国人による ／

第32回 日本語スピーチコンテスト 出場者募集

予選：1月 9日（土曜日）10:00-16:00

本選：1月30日（土曜日）13:30-16:30

■テーマ

自由

（ただし、政治的・宗教的、
宣伝・伝道でないもの）

■応募資格

- ①～③を全て満たす方
①鹿児島県に住んでいること
②母語が日本語以外であること
③過去に最優秀賞を
とっていないこと

■表彰・賞金

- 最優秀賞（5万円・副賞）
優秀賞（2万円）
奨励賞（1万円）
審査員特別賞

■発表時間

4分以上6分以内
（1,000字程度）

■詳しい情報はこちら

募集要項や注意事項の詳細は
鹿児島県国際交流協会の
ホームページをご覧ください



詳細ホームページ

鹿児島県国際交流協会 日本語スピーチコンテスト

■申し込みの流れ

Step 1

参加申込
GoogleFormにて
締め切り 11月27日（金）

Step 2

原稿提出
GoogleForm か
E-mail (kia14@kiaweb) まで
締め切り 12月15日（火）

応募者が30名以上の場合、
書類審査を行います。

■申し込みはこちら



参加申込(Google Form)



「Kagoshimaで暮らして」

『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。今回は、ベトナム出身で、種子島・西之表市役所地域おこし協力隊 **アン ゲン ホ アン ゴックさん** をご紹介します。

出身について教えてください。

—出身はベトナムのホーチミン市です。日本に住んで8年目になります。種子島には2025年4月に移住してきました。ベトナムで日本語を専攻し、学校を卒業した後は日本語学校や日系のIT企業で勤務しました。その後、仕事の機会を得て来日しました。

種子島・西之表市への移住のきっかけは？

—夫と共に、夫の地元である種子島に移住してきました。それまでは、東京や福岡で過ごしてきたので、島での暮らしは環境も人との距離感もまったく違い、大きな変化でした。都会から一気に離島の暮らしになったので、最初は戸惑うことも多かったです。



第57回種子島鉄砲まつりの団体手踊りに参加

西之表市で暮らしていて良いなと思うことは？

—地域の運動会・清掃活動に参加したり、近所の人から野菜をもらったり、歩いていると近所の方から声をかけてもらったりすることです。そういう暮らしは、これまで暮らしてきた都会では味わうことができないもので、とても充実しています。どこことなく、ベトナムでの人付き合いに似ていて、顔の見える距離で人とつながれることが、島暮らしの魅力だと思っています。

西之表市での生活で驚いたことはありますか？

—まず、種子島では車が必要であるということですね。東京や福岡では車を使わずに生活していたので、移住する前に運転免許を取得しました。この事は移住希望者に必ず伝えるようにしています。あと、島暮らしで驚いたこととして、ある日スニーカーを履こうとしたら靴の中に何かいるなと思って、よく見てみたら死んだムカデが入っていたことです。これにはさすがに驚きました。自然が近い分、そういう出来事も日常の一部なんだと感じています。

現在のお仕事について教えてください。

—西之表市役所地域支援課で地域おこし協力隊として、移住定住の担当をしています。業務の中で力を入れていることのひとつが、移住者の方たちが集まるコミュニティの場を作ることです。その中でワークショップを企画したり、料理教室を開いたりして、移住者同士、移住者と地域の方との交流の場づくりに力を入れています。

外国人住民に向けた活動もされているそうですね。

—はい。令和8年2月には、先輩の協力隊員と一緒に、島に住む外国人(※)を対象とした「種子島バスツアー」を企画しました。その後、7月には、外国人住民と地域住民の方々が交流できる「やさしい日本語の日」という交流会も企画・開催しました。これまで企画したイベントには、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、ネパール、バングラデシュ国籍の外国人が参加してくれています。国も文化も違う人たちが一つの場所に集まっ

て交流できるのは、企画していてとても嬉しい瞬間です。

参加した方たちの反応はいかがでしたか？

—参加した外国人の方たちからは、普段は仕事と家の往復だけで、地域のことを知ることや地域の人と交流することがなかったけれど、このイベントのおかげで種子島を知るきっかけになったし、地域に住む知り合いも増えたのがよかった、という声をいただいています。イベントがきっかけで知り合った外国人の方から、在留手続きや生活の相談などを個人的に受けることもたまにあります。ちょっとしたことで気軽に聞いてもらえる関係を築けているのは、活動をしていて良かったと感じる部分です。

外国人が地域で暮らす中で、難しさを感じることはどのようなところだと感じますか？

—特に、外国人からすると地域で開催されるイベントなどの情報を得ること、知ることが難しいと思います。例えば日本人は多様なSNSを使いますが、ベトナムではFacebook・Threadsが主流だったりして、そもそも情報を得られない状況があったりします。そのため、対面でコミュニティの場を設けることで、「こういうイベントがあるよ」と伝えて、少しでも外国人の方がそうしたイベントに参加して、地域と接する機会を作りたいと思っています。情報が届くだけで、参加できる人がもっと増えるはずだと感じています。

移住者同士のコミュニティ作りでは、具体的にどんなことをしていますか？

—移住者を対象とした「移住者ミーティング」交流会を定期的に開催しています。島での暮らしの悩みや工夫を共有したりしています。移住してきたばかりの方は、地域の慣習や人付き合いの距離感に戸惑うことも多いので、先に移住した先輩たちの経験を聞ける場があると心強いという声をよく聞きます。そうした場を通して、移住者同士が孤立せずに、島の暮らしに少しずつ馴染んでいけるようにサポートしています。



令和7年度西之表市地域おこし協力隊活動報告会

今後の抱負を教えてください。

—今、地域おこし協力隊として2年目で、来年で3年目に入ります。今後は自分の活動の軸である移住定住支援について、もっと移住者と地域との間をつなぐ架け橋になれるように、交流の場や相談の場をつくっていきたいです。今後も、外国人の方も日本人の方も、垣根なく安心して暮らせる種子島、西之表市を目指して、活動を続けていきたいと思っています。

※参考：2025年12月末時点、種子島・西之表市の外国人数は154人となっており、国籍はベトナムに次いでインドネシア、フィリピン、ミャンマーの順で多い。
(出典：出入国在留管理庁在留外国人統計(旧登録外国人統計) 表番号25-12-t2(国籍・地域別 在留資格別 市区町村別)より)



世界各地で活躍する鹿児島ゆかりの方からのお便りです

世界あちこち便り



ブラジル・マナウス日本人学校 恐田正行 教頭先生

鹿児島の皆さん、こんにちは。私は現在、ブラジル・マナウス日本人学校で教頭として勤務しています。文部科学省のシニア派遣として昨年赴任し、今年で二年目を迎えました。鹿児島からはるか遠く、アマゾンの大自然に囲まれたこの地での日々を、少しご紹介させていただきます。

マナウスはアマゾン川流域の中心都市で、熱帯雨林の玄関口として知られています。街のすぐそばを巨大なアマゾン川が流れ、豊かな自然と共に人々の生活があります。市場に並ぶ魚は種類も大きさも豊富で、特に「タンバキ」という大きな川魚は地元の人々に大人気です。果物も多彩で、グアバやカシュー、アサイなど、日本ではなかなか味わえないものが日常的に食卓に並びます。多民族社会ならではの文化の多様性も魅力で、街を歩けばポルトガル語に加え、アマゾンの先住民の言葉や多くの外国語を耳にし、移民の文化が息づいていることを感じます。鹿児島の桜島のように、自然と共に生きる人々の姿がここマナウスにもあるのだと実感します。



W杯期間中等に見られるストリート・デコレーション

マナウス日本人学校は、現地に暮らす日本人家庭の子どもたちが通う30名程度の小さな学校です。子どもたちの数は決して多くはありませんが、皆、明るく元気に仲よく楽しく学んでいます。授業では日本の学習指導要領に沿った内容を行いながら、ブラジルの文化や言語にも触れる機会を大切にしています。例えば運動会では日本の伝統的な競技に加え、アマゾンのダンスや音楽を取り入れるなど、両方の文化を楽しむ工夫があります。子どもたちは二つの文化を自然に受け入れ、柔軟に成長していく姿がとても頼もしく感じられます。



運動会の様子

教頭として日々子どもたちと接する中で、彼らの「日本人としての誇り」と「ブラジルで生きる力」の両方を育むことの大切さを実感しています。日本語での学びを通じて自分のルーツを確認しつつ、ブラジル社会での生活を通じて多様性を尊重する心を育んでいます。これは、グローバル化が進む現代において非常に重要な力だと思います。マナウスでの生活は、私自身にとっても大きな学びの連続です。アマゾンの自然の雄大さに触れるたびに、人間の営みや存在の小ささを感じると同時に、自然と共に生きる知恵を学んでいます。また、異文化の中で働くことで、改めて日本の良さや鹿児島の温かさを思い出すことも多いです。



マナウスの町の様子

鹿児島の皆さんにも、地球の真裏ではありますが、ぜひ一度この地を訪れていただきたいと思います。アマゾンの森と川、そして多様な人々の暮らしは、きっと新しい発見と感動を与えてくれるはずです。遠く離れたマナウスから、皆さんの健康とご活躍をお祈りしつつ、この便りをお届けします。

令和8年度「日本語ボランティア入門講座・スキルアップ講座」を実施しました！

多様なライフスタイルを持つ在住外国人が、地域社会の一員として安心して暮らすために欠かせないのが、生活に必要な日本語を身につけることです。当協会では、外国人住民が生活に必要な日本語能力を身につけることを支援する日本語ボランティアの育成を目的に、第4回目となる「日本語ボランティア入門講座・スキルアップ講座」を実施しました。

また、7月26日に実施したスキルアップ講座では、神村学園専修学校日本語学科の留学生4名を招き「やさしい日本語」を使った交流を行いました。外国人にとってわかりやすい日本語について学ぶ、実践的な学びとなりました。

- 講 師● 田中 芳 氏（NPO法人 居場所－共学ステーションかごしま・理事）
- 日 時● 6月7日から8月9日までの全9回
- 場 所● 対面（カイクックス交流センター）とオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式
- 参加者● 入門講座23名、スキルアップ講座は、入門講座修了者を対象に23名が参加

●入門講座（全3回）●
在住外国人の状況や地域日本語教室の役割などについて

●スキルアップ講座（全6回）●
難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語である「やさしい日本語」の話し方・書き方や、「外国語としての日本語」について



JICA 海外協力隊で世界へ！

JICA 海外協力隊とは、JICA（独立行政法人国際協力機構）が派遣する海外ボランティアです。隊員は2年間、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で途上国の課題解決に貢献する活動を行っています。鹿児島からは、現在 20 カ国 24 名の方が出発し、それぞれの地で活躍しています。これまでに 1000 名以上の方を輩出しており、全国でも成人人口当たりで上位の派遣者数となっています。あなたがこれまで培った経験やスキルを、この世界のどこかで待っている方がきっといます。

「人生なんて、きっかけひとつ！」



JICA デスク鹿児島では、個別相談を受け付けております。「必要な資格は？」、「語学力は？」「帰国後は？」など、皆さまの疑問と一緒に解決していきます。ぜひお気軽にお越しください。

相談は随時受付中！
QRコードより、お申込下さい。



JICA デスク鹿児島 担当: 飯屋 TEL: 090-7167-4238 (公財)鹿児島県国際交流協会内



がいこくじん そうごう そうだん まどぐち 外国人総合相談窓口

かごしまけん す がいこくじん せいかつ なや そうだん
鹿児島県に住む外国人のみなさん、生活の悩みがあったら相談してください。
ざいりゅうしかく しごと びょうき しゅっさん こ きょういく じょうほう せんもん ばしょ つた
在留資格・仕事・病気・出産・子どもの教育などについて、あなたにあった情報や専門の場所を伝えます。

※26の言語で相談をすることができます。

日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します。

その他の言語：中国語、タガログ語、韓国語、インドネシア語、ネパール語、クメール語、タイ語、ミャンマー語、ポルトガル語、スペイン語、マレー語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、ベンガル語、ウルドゥー語、トルコ語、アラビア語は、多言語コールセンターなどを活用します。

こまったときは、電話してください。

070-7662-4541 (火曜日～日曜日 9:00-17:00)

メール (kiasoudan (at) gmail.com) や facebook でも相談できます。

※(at)を@にかえてください

場所：鹿児島県国際交流協会 ↓↓↓



homepage



facebook



mail

編集・発行

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816

鹿児島市山下町14-50カクイックス交流センター1階

TEL: 099-221-6620

Email: kia (at) kiaweb.or.jp ※(at)を@に変えてください

開所：火曜日～日曜日 9:00-17:00



▲ホームページ



▲facebook

